

# マネジメント講座

前回、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の本質はデジタルレイバーを活用した人事技術と述べた。

RPAホールディングス（HD）各社では10万超のロボットの稼働・提供・運用支援を行っている。RPAHD経理課の業務は社員2〜3人と100体を超えるロボットで運用されている。

最も基本的な作業の1つを代行している「請求書作成ロボット」を例にあげる。従前、請求書作成は1人でネットスイートなどソフトの期間貸し（ASP）型経理システムやエクセルを操作し、手作業で各社の顧客情報やプロジェクト情報と発注ステータスなどの整合処理から請求書の作成、経理確認を行っていた。

システムやデータを自動連携する手段もあるが、異なるASPや社内データを一気通貫で連携

## RPA入門③ 処理時間・コストで高い効果

するコストは非現実的であり、連携作業は恒常的に人手でやるしかない。

ここで活躍するのがデジタルレイバー。一連のシステムやデータの操作作業を1回だけ記録し設定すれば、後は人によって処理し請求書を作成し続けてくれる。

図を参照頂きたい。処理時間、品質、コストともに圧倒的な効果を実現しており、業容拡大を見据えた場合には欠かせない「人材」であることは自明の理であらう。

日本企業は事務領域でもおもてなしの心で細かい作業が膨大である。そのため、先進国の中でも逆に圧倒的に低い労働生産性の評価が恒常化してしまっている。しかしデジタルレイバーによってこれらの劣悪な環境がまるでオセロゲームのように変貌する。直感的に考えても非常に楽しいことである。

（RPAテクノロジーズ代表取締役社長 大角暢之）

